



— 第二回 —

秋の表参道も着物で散策

# 門前まち 花遊歩

牛に引かれて善光寺参り

主催 NUPRI NPO法人長野都市経営研究所  
後援 長野市、善光寺、長野商工会議所、  
中央通り活性化連絡協議会、  
ながの軽トラ市実行委員会



初秋の晴天のもと、十月六日(日)、女性が牛に引かれて善光寺に辿り着くという説話に因んだ「門前まち花遊歩」牛に引かれて善光寺参りを開催しました。現代のキーパーソンである「花のある元気な女性の皆さん」に着物姿での参加を呼びかけ、思い思いの着こなしをされた六十八名が、牛と一緒に善光寺門前まちの散策を楽しみました。

TOiGO広場にて受付(九時三十分〜)、出発式(十時)では、市川浩一郎NUPRI理事長、来賓の小山耕一郎・長野市商工観光部長(鷲沢正一長野市長代理)、今井克明・長野商工会議所専務理事より挨拶。進行役は鈴木隆治理事。

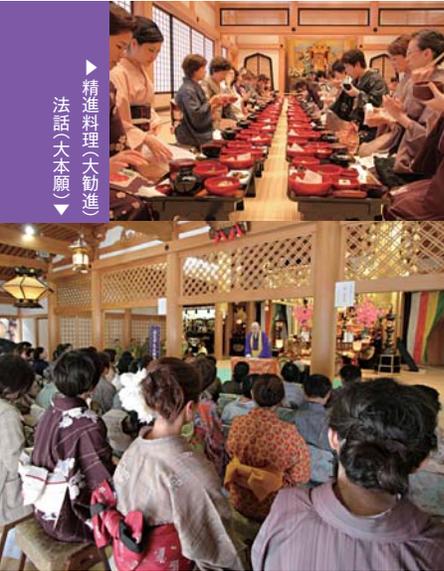




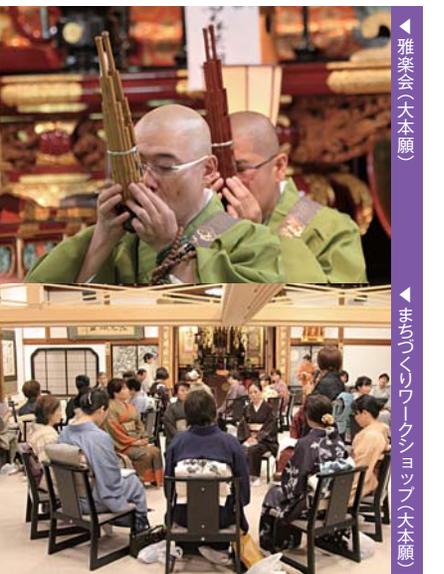
列を先導する牝牛は、千曲市からやってきた御年十六歳の杏花ちゃん。去年に引き続き二度目の登場となります。出発までの間は、杏花ちゃんとのツーショットをカメラに収めたり、普段とは違う艶やかな着物姿を記念に残しておこうとお互いにカメラを向けあう様子も見られました。

川中島在住の七〇代女性は、着物が好きという小学一年生と四年生のお孫さんを連れ立って参加。姉妹の着物は、娘さんが幼い頃にお召しになったものだろうで、レトロな柄がかえって新鮮に映りました。時を経て母から娘に受け継がれていく。これが着物の良さではないでしょうか。姉妹は、履き慣れない草履で善光寺までの道を一生懸命に歩いてくれました。

石畳が敷かれ、美しく生まれ変わった表参道。その景観に着物姿はとも良く映え、観光客の方も思わず足を止めて、雅びな行列にしばし見入っていました。善光寺境内に入ると、ますます観光客の数が増え、本物の牛に驚きの声を上げる方も。山門に到着し、若麻績正宏法務局次長よりお言葉をいただきました。



▶ 精進料理(大勸進 法話(大本願))



◀ 雅楽会(大本願)

◀ まつくりワークショップ(大本願)

皆様から寄せられたご意見は、次回のイベントの参考にさせていただきます。

最後は、門前まち長野を盛り上げ、着物の似合うまちにするために、今後どんな仕掛けが必要かというテーマでワークショップを開催。十名ずつ車座になって意見を出し合い、代表の方に発表していただきました。「精進料理が美味しかった」「雅楽を生で聞けてよかった」といった感想のほかに、「門前のお店で簡単なお茶席を設けてはどうか」「着物のリサイクル、着付け教室を開催してみても」「着物で来店するとサービスが受けられるような、地元商店街を巻き込んだ企画が必要」など、具体的な意見がたくさん提案されました。ワークショップ解散後は、配布された善光寺界隈散策絵地図を片手に、各自がまち歩きを楽しみました。

次いで場所を大本願に移し、鷹司誓玉尼公上人より「牛に引かれて善光寺参り」の説話などのお話をいただき、大本願雅楽会による雅楽を鑑賞。演奏の合間に使われている楽器の説明もあり、鑑賞の楽しみがいろいろ広がりました。